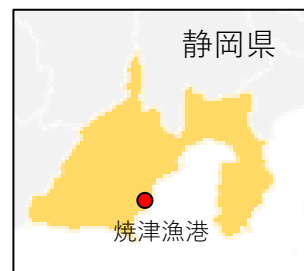


概要

- 焼津市は「さかなのまち」として、マグロ、カツオ等の水産物が豊富であるほか、富士山・駿河湾の景観、焼津温泉など多くの地域資源が存在する。
- これまで漁具倉庫をリノベーションした「焼津PORTERS」を拠点に海業に取り組み、地元漁業者及び水産加工業者の所得向上に一定の成果を上げてきた。
- こうした豊富な地域資源と漁港区域内の既存ストックを活用し、にぎわい施設の整備やインバウンドへの対応等、挑戦的な取り組みを行うとともに、水産業の発展や、地域の所得・雇用の創出、地域全体の活性化により確実に繋がる海業の形を追求し、全国の範となるモデルケースの創出を目指す。



海業の取組概要

●市有地における（仮称）水産・観光交流施設等の整備

- ・民間活力による施設整備に向けた検討を進める



●地域資源を活用した観光コンテンツの開発・パッケージ化

- ・漁港区域外の地域資源も含めた観光コンテンツの開発を行う

帆屋（旧服部家）



●二次交通の整備

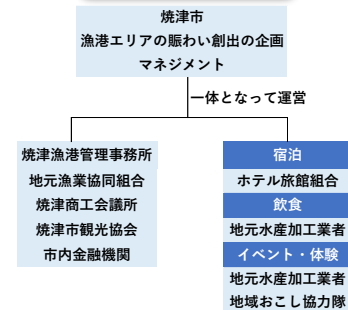
- ・漁港区域の回遊性を高め、滞在時間の延伸を図るため、カーシェアリングや電動キックボードのレンタル、グリーンスローモビリティ等を導入



効果

- 海業関連施設販売額 5%増加
- 海業の振興または水産業の課題、解決に関わる事業創出 3件
- 経済波及効果 20%増加
- 観光交流客数 20,000人増加
- アンケート調査による二次交通導入期待値 80%

協力体制



スケジュール

- R6.4～5月 地区協議会の設立
- R6.6～9月 海業の取組内容の検討
- R6.10月 計画案の骨子の作成
- R6.10月～R7.2月 海業の取組を実現するための実証事業

●経済波及効果の検証（PDCA）

- ・焼津市産業連関表を活用し、経済波及効果を測定する
- ・アンケート等も活用し、海業の取組内容のさらなる改善を図る



●インバウンドなど新たな観光需要への対応

- ・近年拡大を続けるインバウンド需要、特に富裕層を取り込んでいくための検討を進める



●焼津PORTERSの取組の強化・横展開

- ・「漁具倉庫」をリノベーションし、コワーキングスペース等を整備
- ・今後は、多様な産業のコラボレーションにより、水産業・地域を活性化する海業拠点として発展させる

